

Ever Onward

アニュアルレポート 2018

2018年3月期



はじめてのシマセイキ

多彩なニットを創り出す

よこ あみ き

横編機のリーディングカンパニー

横編機は、デザイン性の高いニットウェアの生産で活躍しています。

シマセイキは、コンピュータ横編機メーカーとして常に新しい

技術開発への挑戦を続け、ユーザー業界をリードしています。

ニットの特長

ニットとは、ループ状の編地になっている服や生地のことです。

伸縮性があり、からだにやさしい衣料で、通気性が良くカラーバリエーションも豊富です。

適した素材を使用することで、シーズンにかかわらず一年中着用することができます。

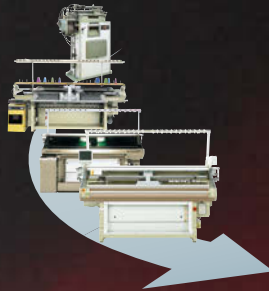


ホールガーメント®横編機で作製した
ニットワンピース

シマセイキ 5つの特長

1 技術革新を続けて半世紀

1962年に手袋編機メーカーとしてスタートした当社は、機械と電子の技術を融合した総合メカトロニクス企業として、技術革新を通じて世界のニット・アパレル産業の発展に貢献し続けています。



2 海外販売が90%以上

ファッション産業の中心地イタリアや、世界最大のニット生産地である中国・香港、新たな生産拠点として拡大している南アジア・ASEAN諸国など、全世界で高い評価をいただいています。



3 日本国内での一貫生産による“ジャパंकオリティ”

製造は全て日本国内の本社工場で行っています。部品から組み立てまでの一貫生産により、多種多様な製品を効率的に生み出すとともに、耐久性・安定性などの優れた品質を確保。世界中の顧客から高い信頼を獲得しています。



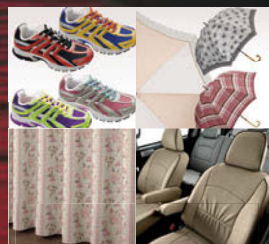
4 横編機の最高峰 ホールガーメント®

「一着丸ごと縫い目がないニット」を作るホールガーメント®横編機は、シマセイキの独自開発。高いデザイン性と着心地の良さを実現するとともに、カットロスや縫いしろが不要で省資源なうえ、世界的な縫製技能者の不足という問題の解決にも大きく寄与します。



5 アパレル分野以外にも積極展開

デザインシステム関連事業を中心に、アパレル以外の分野にも「SDS®-ONE APEX3」や自動裁断機「P-CAM®」などを幅広く提案。高性能・高品質の製造機器をさまざまな業界に提供しています。



目次

シマセイキとは

- 1 はじめてのシマセイキ
- 3 55年 革新の歴史
- 5 シマセイキの価値創造モデル
- 7 財務ハイライト

経営戦略

- 9 トップメッセージ
- 15 中期経営計画

事業活動の成果

- 19 事業セグメントの状況
- 21 トピックス2018

成長を支える基盤

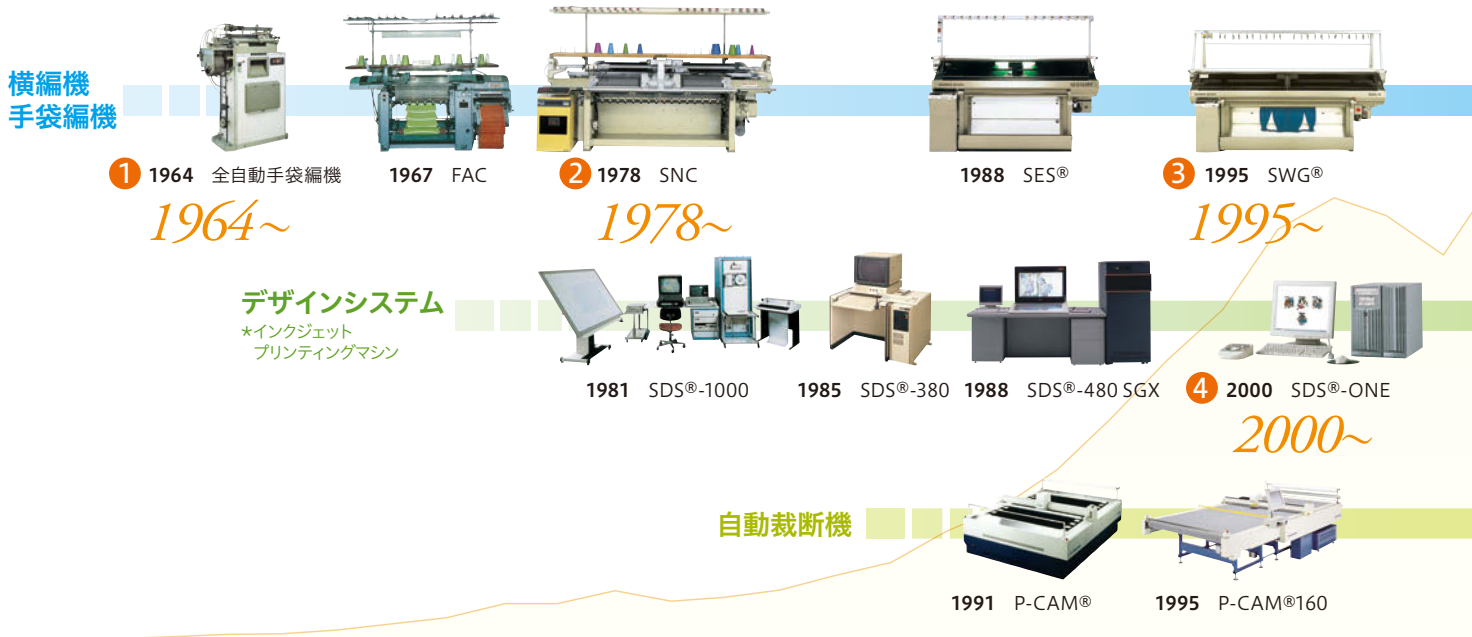
- 23 ESGハイライト
- 24 事業の発展と継続のために
- 26 株主・投資家との対話
- 27 コーポレート・ガバナンス
- 30 取締役・監査役・執行役員

財務・企業情報

- 31 財務情報について
- 32 会社情報

社会に価値を創造し続けてきた、シマセイキの歩み

1962年創立のシマセイキは、その2年後に世界初の全自動手袋編機を生み出して以来、数多くのコンピュータ横編機、デザインシステム等を世に送り、大きなインパクトをアパレル産業にもたらしました。これらの製品は、時代のニーズを先取りして製品化したものであり、ニット産業のみならず、その時代の社会課題の解決にも貢献してきました。



① 全自動手袋編機

1964~

巻き込み事故を防止する 「ゴム入り安全手袋」の普及を促進

かつて日本の工場では、作業員が作業手袋ごと機械に巻き込まれ、命を落とす重大事故が多発していました。こうした事故を防ぐために考案されたのが、着脱が容易で巻き込まれてもすぐ脱げるように手首部分にゴム糸を編み込んだ「ゴム入り安全手袋」です。

シマセイキが開発した全自動手袋編機は、それまで高級品だった作業用手袋の製造コストを大きく低減して普及に貢献。手袋を自動で編み上げるこの技術はその後のホールゲーム®横編機にも繋がっています。



工場に並ぶ最新鋭の手袋編機



医療用手袋

② コンピュータ制御横編機

1978~

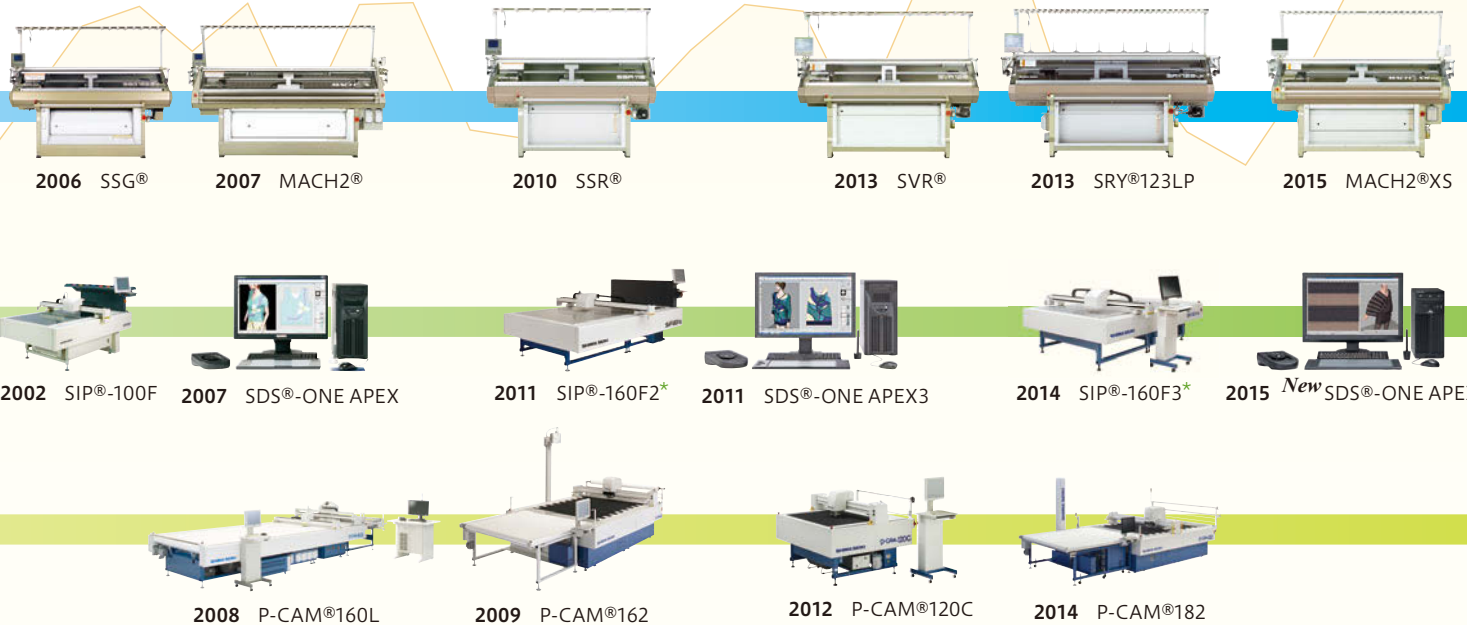
時代の要請に応え ニット産業の「多品種少量化」に貢献

1970年代、シマセイキは「コンピュータ制御横編機」という新しいコンセプトの実現に挑戦し、1978年に「シマトロニック®コンピュータ制御横編機(SNC)」を開発しました。

日本経済がオイルショックを経て安定成長期へ移行し、大量生産から多品種少量へと時代の流れが変わる中、熟練技術が要求されるさまざまな調整や選針など、人手のかかっていた作業をコンピュータ制御に置き換えることにより、ニット産業の多品種少量生産への道を拓きました。



ITMAミラノでの展示風景(1983年)



シマセイキ売上高(1989年度より連結)

3 完全無縫製型コンピュータ横編機 1995~

過酷なリンク作業をなくし 労働環境の改善にも寄与

ニット衣料は、裾、袖、身頃などのパーツごとに編み立てし、ミシンでの縫製のほか、目と目を繋ぐリンク作業で縫い合わせるのが一般的です。編み目の一つ一つに針を通し続けるこの工程は、目を酷使するため「20代が定年」と言われるほど過酷な作業です。

ホールガーメント®横編機は、縫い目がなく一着丸ごと編み上げるため、このリンク作業をなくすことができ、生産コストを削減すると同時に、労働環境の改善にも寄与しています。



ホールガーメント®横編機

4 デザインシステム「SDS®-ONE」 2000~

高精細バーチャルサンプルで 企画・デザインを劇的に効率化

アパレル製品の企画・デザインプロセスに不可欠の試作品(サンプル)。しかしその製作には多大なコストと時間を要します。

「SDS®-ONE」はニットデザインにおける柄作成時間の大幅な短縮を実現。さらに高精細なバーチャルサンプルを活用することで、実物のサンプル作成の時間とコストを省き、効率的な生産を可能にしました。市場が求める商品をタイムリーに提供できるため、適正在庫で産業全体の効率性も高めています。



SDS®-ONE APEX3を使ったデザインの様子

「世界初」「オンリーワン」の製品で、アパレル産業を

主な資本(インプット、連結)

開発力

世界初、**オンリーワン**の
製品・サービスを生み出す力

生産技術力

多品種少量製品を**高品質**に
一気通貫で生産できる技術

販売力

80カ国以上で販売
海外売上比率 **90**%

社会的課題

資源の消費/
衣料品の
在庫廃棄

過重労働による
健康障害

単純作業による
低賃金労働

お客様課題

ファッションの
高度化への対応

多様なモノづくり
への対応

市場トレンドの
構造変化

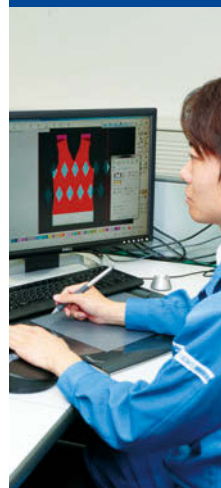
生産プロセスで生じる
ロスの削減

労働環境の改善

事業活動

開発・設計、生産、サポートを
すべてワンストップで提供

開発・設計



生産



会社を支える 基盤

企業理念
Ever Onward

ステーク ホルダー

株主・
投資家

地域社会

中心とした社会課題の解決に貢献します

人財力

従業員 **1,931** 名
長期雇用によるノウハウの蓄積
独創性を生む社風

知財力(単体)

特許保有 **1,382** 件
商標登録 **319** 件

財務力

自己資本比率 **80%**
ROE **9.9%**

アウトプット



横編機



デザインシステム



自動裁断機



手袋・靴下編機

サポート



10年後のビジョン
& 中期経営計画

ガバナンス

お客様

取引先

従業員

創出される社会的価値 (アウトカム)

お客様に 提供する価値

多彩なデザインを
クイックレスポンスで

多品種少量対応

市場トレンドの変化に
機敏に対応できる
ソリューション

生産プロセスの
高効率化

働き続けられる
労働環境の提供

廃棄衣料の減少
カットロスの削減

12 つくる責任
つかう責任



過酷な労働の削減

3 すべての人に
健康と福祉を



アパレル産業の
高付加価値化

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



財務ハイライト

株式会社島精機製作所および連結子会社
3月31日に終了した連結会計年度

	2009	2010	2011	2012	2013	2014
会計年度:	百万円					
売上高	¥48,970	¥36,874	¥42,781	¥37,327	¥34,970	¥40,636
売上総利益	24,652	14,139	19,194	14,432	12,212	17,269
営業利益(損失)	8,528	651	5,908	883	(509)	2,732
税金等調整前 当期純利益(損失)	4,057	(1,042)	1,092	(537)	3,363	7,230
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	1,766	(1,885)	770	(642)	1,754	4,863

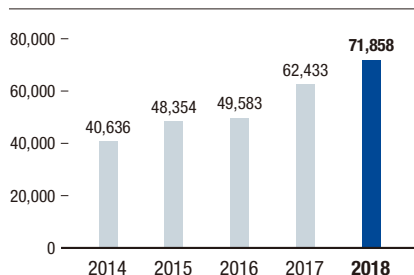
	百万円					
会計年度末:						
総資産	¥119,778	¥110,063	¥113,951	¥106,863	¥112,089	¥119,727
純資産	91,064	87,473	86,591	84,167	87,382	93,222

	円					
1株当たり情報:						
当期純利益(損失)	¥49.88	¥(54.52)	¥22.26	¥(18.60)	¥51.26	¥142.13
配当金	40.00	30.00	35.00	40.00	25.00	32.50
純資産	2,633.55	2,529.67	2,502.27	2,454.07	2,547.88	2,718.57

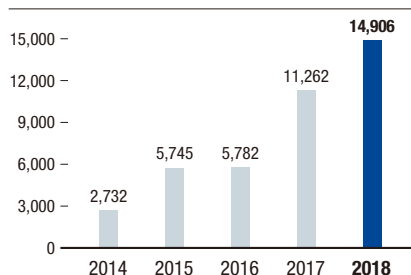
	%					
財務指標:						
ROA	1.4%	(1.6)%	0.7%	(0.6)%	1.6%	4.2%
ROE	1.9	(2.0)	0.8	(0.8)	2.0	5.4
自己資本比率	76.0	79.5	75.9	78.6	77.8	77.7
海外売上高比率	91.0	91.6	91.1	87.6	84.7	83.6

(注) 読者の便宜のため、円建金額を2018年3月31日現在の為替レートである1米ドル=106.24円、1ユーロ=130.52円でそれぞれ換算しています。

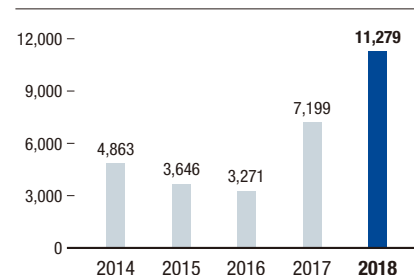
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

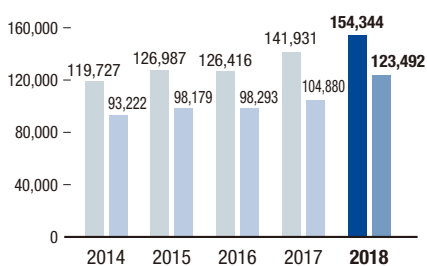


親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)

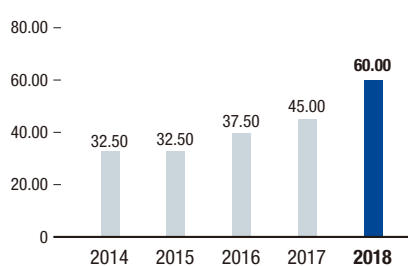


2015	2016	2017	2018	2017 ▶ 2018	2018	2018
				増減率	千米ドル	千ユーロ
¥48,354	¥49,583	¥62,433	¥71,858	15.1%	\$676,374	€550,552
21,866	23,345	29,048	33,438	15.1	314,740	256,191
5,745	5,782	11,262	14,906	32.4	140,305	114,205
7,006	4,803	9,979	15,443	54.7	145,360	118,319
3,646	3,271	7,199	11,279	56.7	106,165	86,416
				増減率	千米ドル	千ユーロ
¥126,987	¥126,416	¥141,931	¥154,344	8.7%	\$1,452,786	€1,182,531
98,179	98,293	104,880	123,492	17.7	1,162,387	946,154
				増減率	米ドル	ユーロ
¥106.54	¥95.61	¥209.97	¥316.82	50.9%	\$2.98	€2.43
32.50	37.50	45.00	60.00	33.3	0.56	0.46
2,863.49	2,867.00	3,039.66	3,381.85	11.3	31.83	25.91
3.0%	2.6%	5.4%	7.6%			
3.8	3.3	7.1	9.9			
77.2	77.6	73.8	80.0			
84.1	83.5	87.6	90.0			

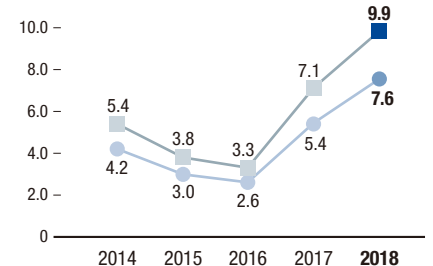
総資産／純資産 (百万円) ■ 総資産 ■ 純資産



1株当たり配当金 (円)



ROA／ROE (%) ● ROA ■ ROE





好調な横編機事業が
牽引し、過去最高の
売上高を達成。
新中期経営計画を通じて
イノベーションを起こし
続ける会社を目指します。

代表取締役社長

島 三博

Ever Onward — 限りなき前進

当社は、「手袋編機の全自動化」という難課題を実現するため、島正博によって1962年に創立されました。

「Ever Onward – 限りなき前進」を経営理念に掲げ、常に新しい技術の開発を目指して、惜しみない努力と未知なる領域への挑戦を続けてまいりました。

創業以来、時代のニーズを先取りした横編機やデザインシステムを次々と開発し、世界のトップメーカーへと成長。1990年代には、「産業革命に匹敵する」と評された無縫製型の「ホールガーメント®横編機」の開発に成功しました。

今後も新たな技術開発へのチャレンジを続けながら、企画提案型のビジネスモデルの浸透を図り、アパレル産業をはじめユーザー業界の発展に貢献してまいります。



Q₁ 当期(2018年3月期)の主な取り組みと業績について説明してください。



A₁ 横編機事業の売上を中心に、大幅な増収増益となりました。

当期は、国内外のさまざまなユーザーの要望に応えるべく、各市場のニーズに合わせた製品・サービスの提供に努めるとともに、顧客に密着した提案活動を展開しました。特に主力ビジネスの横編機事業は、アジア市場を中心に前期(2017年3月期)後半からの好調を維持し、1年間を通じて高水準の受注ペースが続いたことで業績全体を牽引しました。

この結果、当期の連結売上高は718億58百万円(前年同期比15.1%増)と、好調だった前期をさらに上回り過去最高となりました。営業利益については、増産効果による原価低減などにより、149億6百万円(同32.4%増)となりました。また経常利益は、前期のような為替変動の影響が少なかったことなどから155億25百万円(同54.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益も過去最高の112億79百万円(同56.7%増)と、いずれも大きく伸ばすことができました。

当期は2015年に発表した中期経営計画「Ever Onward 2017」の最終年度でもありましたが、3年前に掲げた数値目標(売上高700億円・営業利益150億円・経常利益150億円、当期純利益100億円)を、ほぼ達成することができました。次期(2019年3月期)からは、新しい中期経営計画をスタートさせますが、これまでの3年間の勢いを維持・拡大して、さらなる飛躍を目指していきます。

代表取締役社長 島 三博(しま みつひろ) プロフィール

1987年3月 当社入社
 1998年3月 システム開発部長
 2002年6月 取締役システム開発部長
 2007年6月 常務取締役制御システム開発部、知的財産部、トータルデザインセンター担当兼グラフィックシステム開発部長
 2011年6月 専務取締役生産技術部、トータルデザインセンター担当兼生産本部長
 2012年6月 取締役副社長経営企画部、トータルデザインセンター担当兼営業本部副本部長
 2015年4月 取締役副社長兼営業本部副本部長兼経営企画部担当
 2017年6月 代表取締役社長兼営業本部長兼経営企画部担当
 2018年6月 代表取締役社長執行役員兼経営企画部担当(現任)



Q₂

事業分野別の状況について説明してください。

A₂

ASEAN諸国と中国市場で横編機事業の売上が伸長しました。

主力の横編機事業は非常に好調で、全体の販売台数は過去最高を達成しました。アジア地域では、欧米アパレル向け生産拠点であるバングラデシュやASEAN諸国で「SSR®」や「SVR®」を中心に販売が拡大しました。

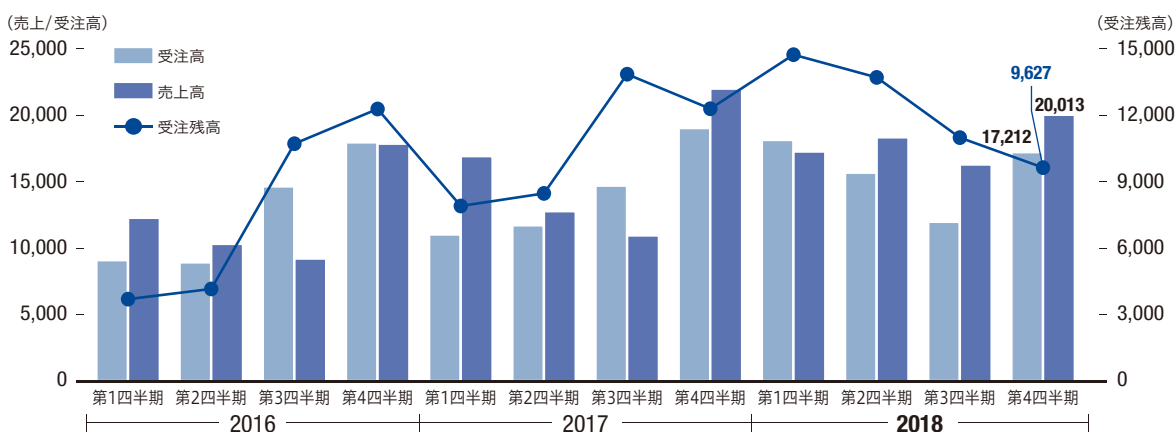
中国市場でも国内ファッション市場の活性化を背景に、OEM生産から国内市場向けに付加価値の高いモノづくりへと戦略転換する顧客企業が増加し、「MACH2®XS」をはじめとするホールガーメント®横編機の需要が高まりました。中国市場ではこのほか、スポーツシューズ生産向けにコンピュータ横編機の活用が広がったことも売上の伸長に寄与しました。

欧州アパレル向け生産地である中東のトルコは、前期後半からやや低調となっていました。当期後半からは「SVR®」を中心に受注が急増し、売上高は前年を大きく上回りました。

欧州市場では、ファッション中心地のイタリアでもホールガーメント®横編機や、高付加価値製品を編成できる「SRY®」「SIR®」などの上位機種を中心に販売が好調に推移しました。

デザインシステム関連事業では、「SDS®-ONE APEX3」が海外で堅調に販売を伸ばしましたが、日本の

四半期別売上高/受注高/受注残高 (百万円)



(3月31日に終了した連結会計年度)



- ①「プルミエール・ヴィジョン」(パリ)
- ②「JFW JAPAN CREATION 2018」(東京)
- ③「SHIMA CROSSTEX」(香港)
- ④「第50回 大阪ミシンショー2018」
- ⑤「ロボカップジュニア・ジャパンオープン2018 和歌山」に特別協賛

アパレル不振の影響などで微増となりました。自動裁断機「P-CAM®」も、日本国内向けを中心にアパレル分野以外へ販路を広げましたが、販売は伸び悩みました。

また2017年11月には、「創立55周年記念イベント」を和歌山で開催し、これを成功させるべく全社一丸となって注力しました。イベントでは世界各国から1,000名を超えるユーザーを和歌山に招き、最新機種種の展示やデモンストレーション、オリジナルデザインによるニットサンプル約500点の展示、バーチャルモデルを活用したファッションショーなどを通して積極的な提案活動を行いました。このイベントは受注拡大だけでなく、当社の提唱する「トータルファッションシステム®」を、多くのお客様に浸透させる効果も大きかったと捉えています。

Q₃

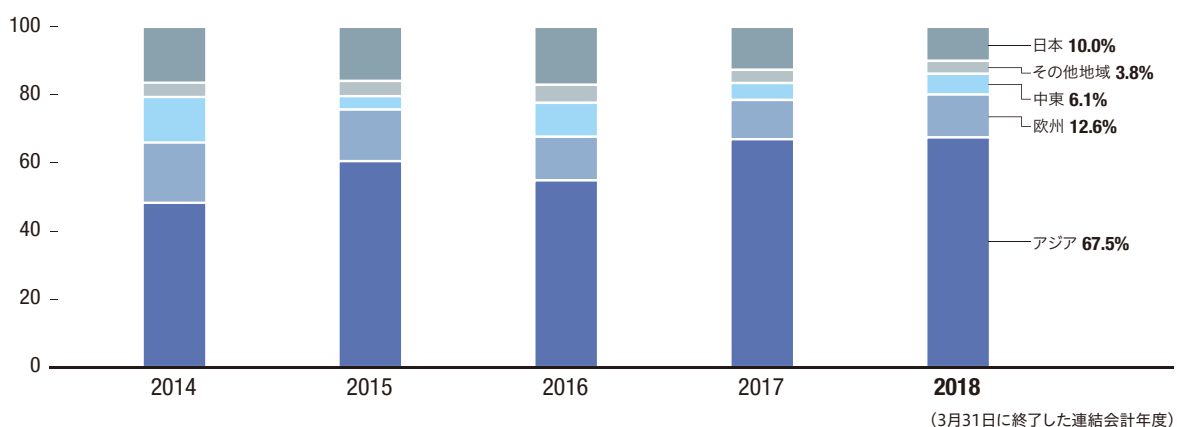
次期(2019年3月期)の主な取り組みと業績の見通しについて説明してください。

A₃

各地域で技術者を育て、グローバルな成長を促進していきます。

次期も引き続き、世界各国・地域で、ユーザーに密着した提案活動を進めていきます。最重要課題である「ホールガーメント®横編機の拡販」に向けて、ニットメーカーへの提案だけでなく、発注元である大手アパレル

地域別売上高比率 (%)





への提案も強化し、中国で起こりつつある「無縫製化」への流れを世界各地で加速させていきたいと考えています。また、高機能のホールガーメント®横編機を扱える技術者を需要地に育成していくことも重要です。2018年4月には中国のニット生産地に技術者の教育機関を開設しており、今後は欧州向けニットの生産地であるトルコにも同様の機関を開設する予定です。

また、2018年10月には、アジア最大の繊維機器展示会「ITMA ASIA+CITME 2018」が上海で開催されます。この機会を最大限に活用して、企画提案型・高付加価値化へのビジネスモデル転換を図る企業などを中心に、ホールガーメント®横編機の導入メリットを積極的に訴求していく方針です。併せて全生産プロセスを可視化できるシステム「Shima KnitPLM®」の提案にも注力し、複雑化してきている生産管理の面をサポートしていきます。

これらの取り組みにより、次期の連結業績は、売上高760億円、営業利益160億円、経常利益160億円、親会社株主に帰属する当期純利益115億円を計画しています。

Q₄ 新中期経営計画と中長期へ向けた抱負をお聞かせください。

A₄ イノベーションを起こし続ける会社を目指し、
新中期経営計画に取り組んでいきます。

当社は2018年5月に第2次中期経営計画「Ever Onward 2020」を発表しました。今回の中期経営計画の骨子策定にあたっては、社内各部門にヒアリングを行うとともに、若手社員も含め経営層と部門間で徹底的な議論を行ったことで、社員の主体的な参加意識や、計画実現へのモチベーションが大きく高まっています。

新中期経営計画の3年間は、長期ビジョン実現を見据えた「成長の加速」フェーズと位置付けています。前中期経営計画で取り組んだ重点施策を継承していく一方で、激変する経営環境の下で持続的成長を実現するための指針を明確化し、新たに「差別化戦略の推進と事業領域の拡大」「将来の成長に向けた積極的な投資の強化」という2つのメインシナリオを打ち出しました。

新中期経営計画の経営目標では、「2020年度に売上高1,000億円」という数値を設定していますが、私たちが目指しているのは数字だけではありません。企業の持続的成長のための最も重要な“礎”は、全社員が経営



への参加意識を持ち、自由な発想でアイデアを生み出し、主体的に行動するような組織づくりにあると考えています。こうしたイノベーションの思想こそが、中期経営計画の実行を通して当社が目指すところであり、開発部門はもちろん生産部門や間接部門も含め、全部門で業務の無駄をなくし、効率を上げ、仕事の生産性・創造性を大きく高めていきます。

Q₅

株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

A₅

成長の成果を還元し続けていきます。

当社は株主の皆様に対する利益還元を、経営の最重要課題のひとつに位置付けています。当期の株主の皆様への配当金については、好調な業績を鑑み中間配当金25円、期末配当金35円の合計60円(前期から15円増配)で実施させていただきました。次期からは連結配当性向25%を目安に、業績に連動した株主還元を継続していく方針です。

当社はこれからも経営理念「Ever Onward - 限りなき前進」のもと、世界のファッション産業に大きなイノベーションを起こすことができる製品・サービスの創出に挑戦し続けていきます。株主・投資家の皆様には、引き続き当社への温かいご理解とご支援をお願いいたします。

代表取締役社長

島 三博

前中期経営計画(2015~2017年度)の成果と今後の課題

2015年度から2017年度までの3カ年を対象とする前中期経営計画「Ever Onward 2017」は、数値目標をほぼ達成することができました。ここにその成果と今後の課題をご報告いたします。

成果

- 目標数値の達成
- 差別化戦略機種(ホールゲーム®横編機)の伸長
- 営業キャッシュ・フローの改善等による財務の安定化

今後の課題

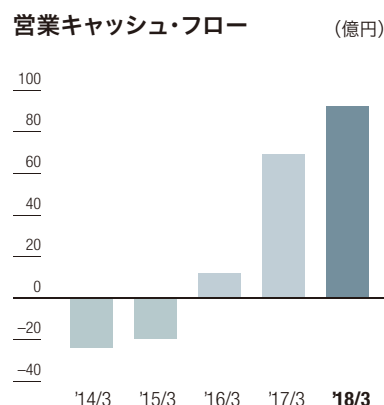
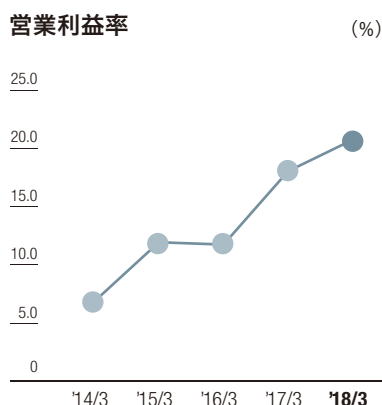
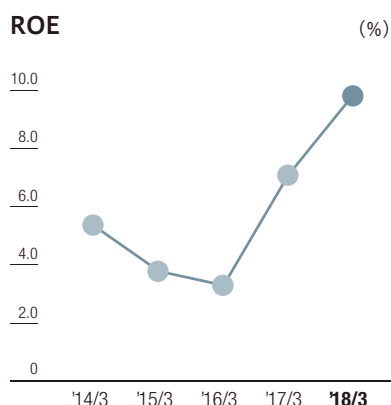
- 業績の横編機事業偏重の是正
- 生産・開発能力の更なる増強
- 売掛債権の削減

前中期経営計画の業績概要

(単位：億円)

	2014年度 実績	2017年度 実績	増減率 2014→2017年度実績	前中計目標	増減率 目標→2017年度実績
売上高	483	718	+48.6%	700	+2.7%
営業利益	57	149	+159.4%	150	△0.6%
経常利益	84	155	+83.3%	150	+3.5%
当期純利益	36	112	+209.4%	100	+12.8%
ROE	3.8%	9.9%	+6.1%	8.5%	+1.4p

- 売上高・利益ともに大きく伸長し、当期純利益は過去最高を更新
- ROEの目標を達成し、資本効率も改善
- 営業利益率が着実に改善
- 営業キャッシュ・フローの資金増加が定着



新中期経営計画の策定における外部環境と課題

新中期経営計画を策定するにあたり、シマセイキを取り巻く外部環境から導き出される課題について、量的拡大と質的变化に分けて分析を行いました。

マーケットの「量的拡大」とシマセイキ課題

シマセイキを取り巻く環境

消費者

- 世界人口の増加と新興国のGDP上昇

リテーラー

- 売上拡大に向けた各種戦略の実施
- 既存横編製品以外での応用

サプライヤー

- 人件費上昇と人手不足
- 大手メーカーの拡大戦略

競合他社

- 価格戦略の強化
- 機能・品質の向上

機会の拡大

- 既存アパレル市場の安定的な拡大
- 新たな横編市場の出現
- 自動化設備の需要拡大

シマセイキの課題

- 需要に応える生産能力の増強
- ホールガーメント®技術等を使った差別化戦略の推進
- 前後工程も含めた商品ラインアップの拡充

マーケットの「質的变化」とシマセイキ課題

シマセイキを取り巻く環境

消費者

- スマートフォンやシェアリングエコノミーの普及
- ESG/SDGs等を意識した購買行動

リテーラー

- ネット販売の増加
- オンデマンド、カスタマイズ販売の増加

サプライヤー

- 生産の可視化、効率化
- 新たな素材の開発

競合他社

- 既存アパレル以外へのアプローチ重視

機会の拡大

- 社会の変化や新素材の開発による新たな横編市場の出現
- サステナビリティを意識した効率化投資の増加

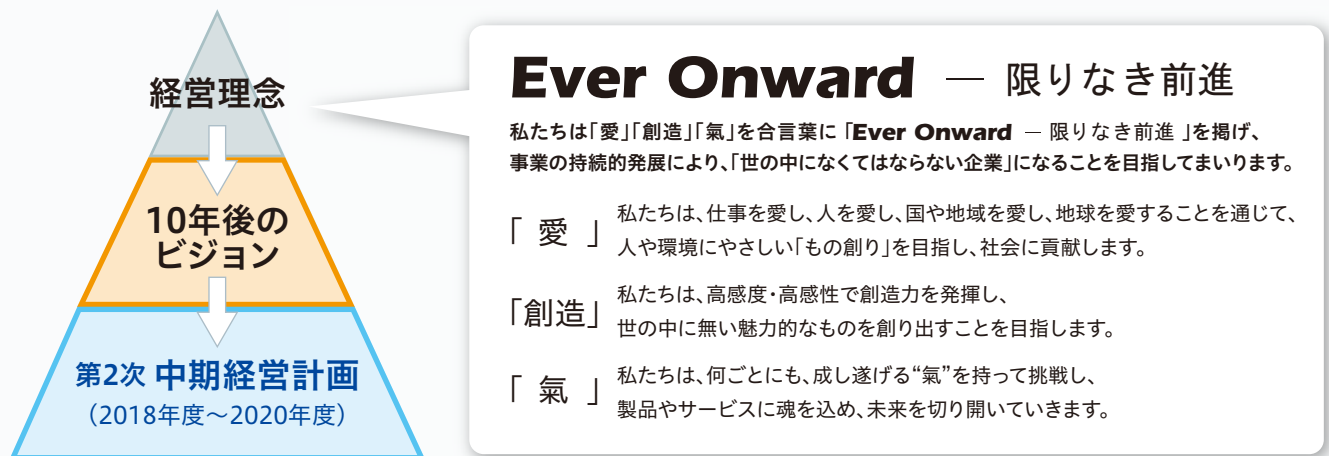
シマセイキの課題

- 顧客ニーズに応える製品開発スピード、アジリティ（機敏さ）の向上
- サプライチェーンを繋ぐソリューション提案の強化

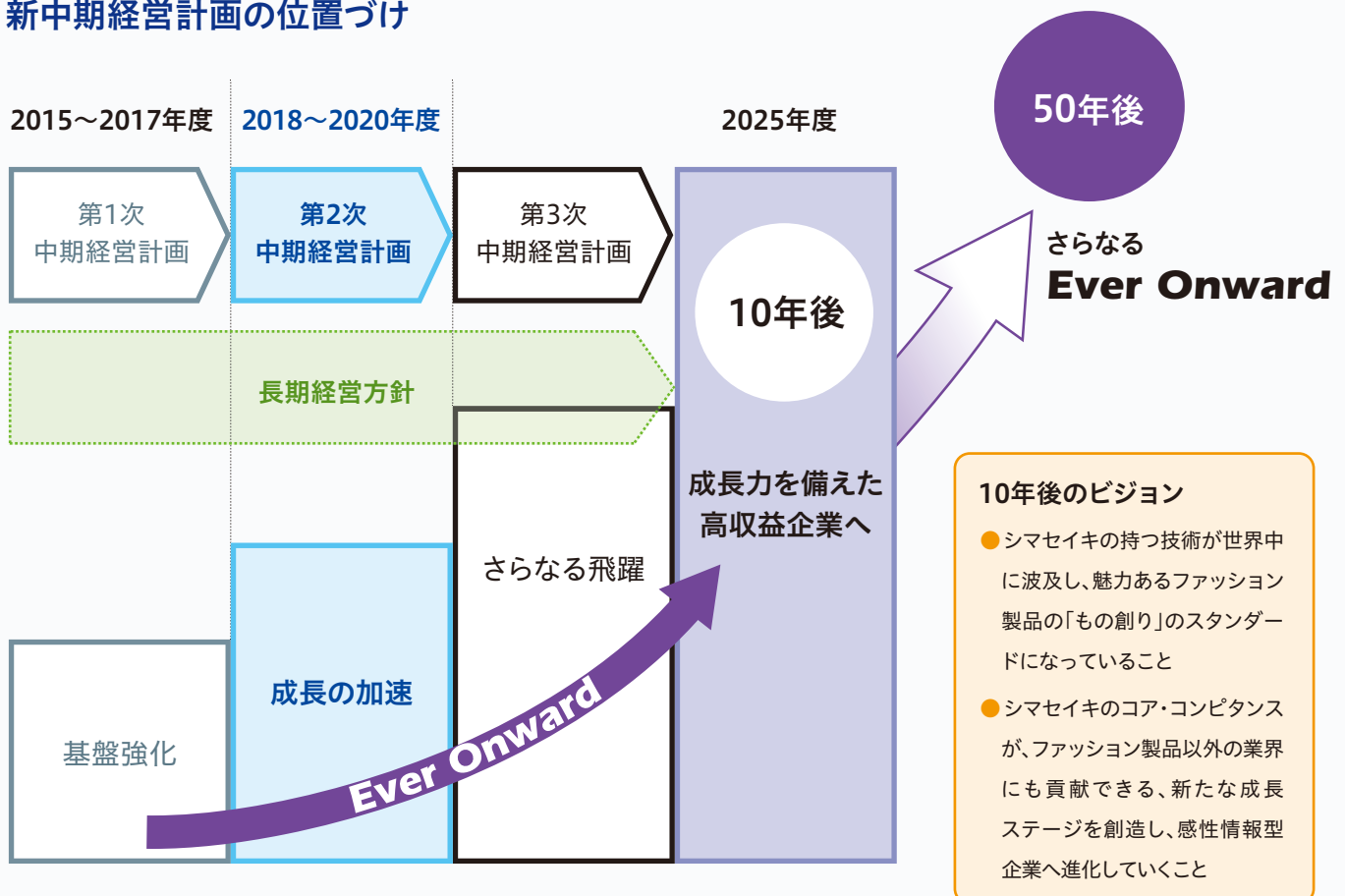
新中期経営計画「Ever Onward 2020」(2018~2020年度)

新たにシマセイキは、2018年度から2020年度までの3カ年を対象とする中期経営計画「Ever Onward 2020」を策定しました。今後も、激しく変化する経営環境に対応し、世界に比類なき製品を提供し続けていきます。

新中期経営計画の概念図



新中期経営計画の位置づけ



「Ever Onward 2020」の概要

新中期経営計画の メインシナリオ

1 差別化戦略の推進と
事業領域の拡大

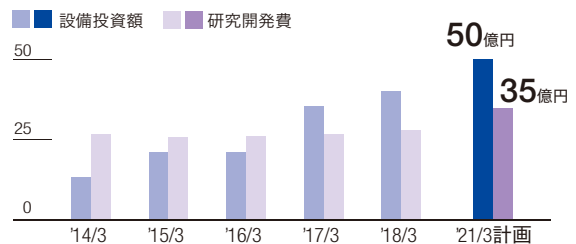
2 将来の成長に向けた
積極的な投資の強化

重点施策

- ① 横編機事業の最強化
- ② 独自性をもった事業範囲の拡大
- ③ 収益構造の改革
- ④ 経営基盤の強化

投資計画

- 成長戦略の実施に向けた戦略的な投資
- 経営基盤を強化する効率的な投資



経営目標

顧客ニーズに応えるための積極的な投資を実施するとともにさらなる業績の向上と財務の健全化を目指す。

(単位:億円)	2017年度 (実績)	2020年度 (目標)	増減率
			2017年度 実績 → 2020年度 目標
売上高	718	1,000億円	+39%
営業利益	149	250億円	+68%
経常利益	155	250億円	+61%
当期純利益	112	180億円	+60%
ROE	9.9%	12%	+2.1p

株主還元

(1) 利益還元方針

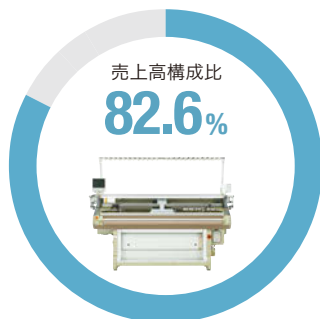
シマセイキは株主に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、事業の持続的発展を通じて、安定した配当を長期にわたって継続することを基本方針とする。そのうえで、長期的視点に立った成長投資および今後の事業展開に備えた内部留保にもバランス良く配分を行う。

(2) 株主還元指針(2018年度から3カ年)

連結配当性向: 25% を目安とする。

従来よりも利益成長との連動性を高め、連結配当性向25%を目安とする「株主配当」を実施するとともに、株価水準や資金の状況、市場環境などを総合的に勘案し、時機に応じて柔軟に「自己株式の取得」を行うなど、資本効率の向上にも努める。

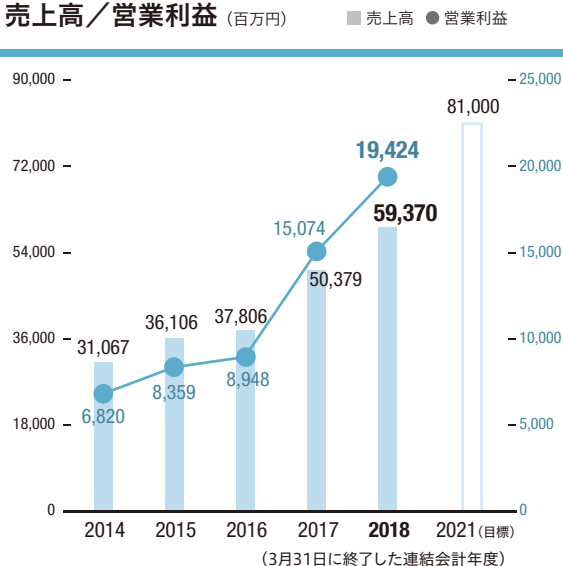
当期の概況と次期の見通し



横編機事業

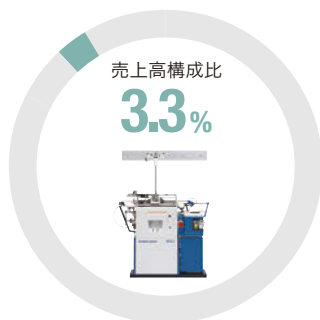
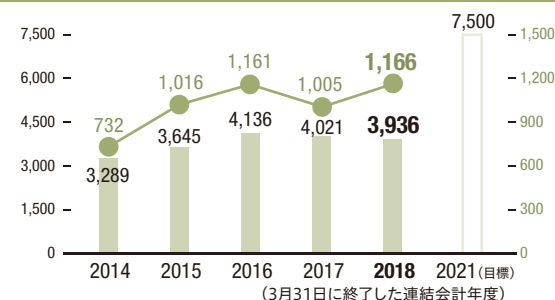
世界トップの技術力を誇るコンピュータ横編機を製造・販売する当社の主力ビジネス。一着丸ごと立体的に編み上げるホールガーメント®横編機、伸縮性を抑えた新しい編地ができる「SRY®」、コストパフォーマンスに優れた「SSR®」、さらに高速編成を可能とする「SVR®」など、独自の開発力を生かした豊富なラインアップで進化し続けています。

売上高／営業利益 (百万円)



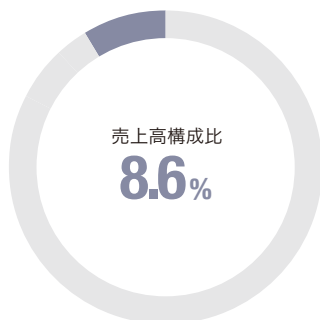
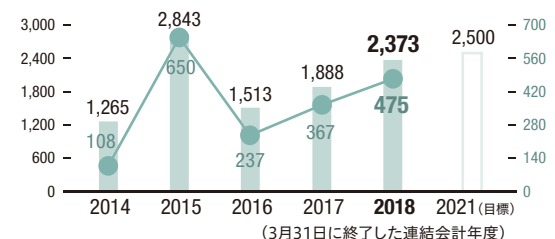
デザインシステム関連事業

アパレル業界をはじめ、さまざまな業界のモノづくりを支援するデザインシステムを提供。高精細なバーチャルサンプルや三次元シミュレーションなどを駆使することで、多彩なデザインを可能にすると同時にリードタイムの短縮とコスト削減を実現。また、自動裁断機による異業種への展開も積極的に進めています。



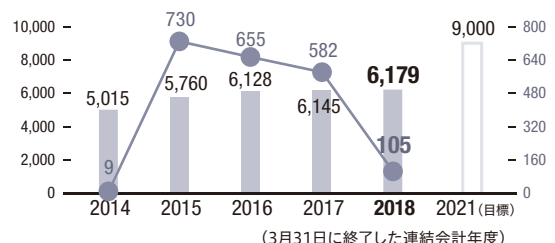
手袋靴下編機事業

当社技術開発の原点である手袋編機、靴下編機の製造・販売。ファインゲージ化も進め、医療用など高付加価値分野への対応を強化しています。



その他事業

当社編機・システム機器のメンテナンス部品の販売や修理・保守、高級カシミア糸の紡績、ニット製品の販売などの事業を行っています。



当期の概況

アジアでは、欧米アパレル向けの大量生産拠点であるバングラデシュやASEAN諸国において「SSR®」や「SVR®」などを中心に順調に販売が拡大しました。中国では、国内アパレル消費の拡大に伴って企画提案型・高付加価値生産への転換が進んだことからホールゲーム®横編機「MACH2®XS」の導入が加速し、これに加えてシューズなど横編機の新たな活用分野が拡大し販売が増加しました。韓国においても、ホールゲーム®横編機の売上が堅調に推移しました。

欧州では世界のファッションの中心地イタリアでホールゲーム®横編機を中心に、上位機種が販売を伸ばしました。さらに政情不安で設備投資が低調となっていた中東のトルコも政情が改善した夏以降、設備投資が急速に回復し、「SVR®」を中心に売上が伸びました。

これらの結果、売上高は593億70百万円(前期比17.8%増)となりました。

次期の見通し

バングラデシュやASEAN諸国では、次期も「SSR®」や「SVR®」を中心にコンピュータ横編機を活用した大量生産型のモノづくりが引き続き拡大することが見込まれ、生産体制の増強により旺盛な需要に対応していきます。

当期に設備投資が大きく回復した中国については、自国内ファッション市場の活性化に伴い高付加価値製品へビジネスモデルの転換を図る顧客企業を中心に、ホールゲーム®横編機を含む高機能機種をさらに強化していきます。スポーツシューズ生産向けの販売についても、積極的な提案を展開していきます。

欧米・日本などの先進国市場では、引き続きホールゲーム®横編機「MACH2®XS」を戦略機種と位置づけ、デザインシステムとの連携による「消費地型生産」の提案を強化していきます。

これらの施策により、次期の売上高は620億円(前期比4.4%増)を見込んでいます。

デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」は、ニット産業以外の業種へ導入が広がったものの、日本のアパレル不振の影響などから売上高は微増にとどまりました。自動裁断機「P-CAM®」は、自動車関連、家具関連、産業資材分野など、日本国内向けを中心に販路を広げましたが、売上高は前期に比べやや減少しました。

これらの結果、売上高は39億36百万円(前期比2.1%減)となりました。

「SDS®-ONE APEX3」については引き続き「トータルファッションシステム®」の中核として、ニット・アパレル業界にとどまらず幅広い分野への積極的な提案活動を国内外で展開していきます。また、日本市場を中心に展開してきた「P-CAM®」についても、海外でのサービス拠点の拡充に注力していきます。

これらの施策により、次期の売上高は52億50百万円(前期比33.4%増)を見込んでいます。

大手ユーザーの設備投資が引き続き旺盛で、ファインゲージの手袋編機を中心に販売を伸ばしました。

これらの結果、売上高は23億73百万円(前期比25.7%増)となりました。

次期も高付加価値製品を中心に、国内外の顧客に密着した提案活動を引き続き推進し、需要を喚起していくことでさらなる販売拡大を図ります。売上高は25億円(前期比5.3%増)を見込んでいます。

メンテナンス部品やニット製品の販売などにより、売上高は61億79百万円(前期比0.6%増)となりました。

当期同様の活動に継続して取り組んでいきます。次期の売上高については62億50百万円(前期比1.1%増)を見込んでいます。

Topics 2018

(2017年4月1日～2018年3月31日)

認証

ホールガーメント®ニットウェアの「NUONE+HADACARE」が日本アトピー協会の推薦品マークの認証を受けました



「NUONE+HADACARE」シリーズ

当社の子会社で、ホールガーメント®製品の企画・販売を行っている株式会社SHIMAが展開するブランド「NUONE(ヌワン)」の「HADACARE(ハダケア)」シリーズが日本アトピー協会から推薦品の承認を受け、7アイテムの全国販売を開始しました。「HADACARE」シリーズは、低刺激で抗菌効果も持つ機能性素材「クラビオン®」を使用。ホールガーメント®に素材の機能を加味したことにより、皮膚の敏感な方の衣生活に快適さと安心を提供します。



日本アトピー協会推薦品 承認番号 117095004
このマークは、日本アトピー協会推薦品であることを表すマークです。
日本アトピー協会はアトピー性皮膚炎及びアレルギー性疾患患者の方の生活上支援と、同疾患への正しい理解のための情報発信を行うことを目的としています。

※クラビオンはオーミケンシ株式会社の登録商標です。

受賞

ホールガーメント®が2017年度「グッドデザイン・ベスト100」と特別賞を受賞

当社の「無縫製ニットウェアシステム(ホールガーメント®)」が、公益財団法人デザイン振興会主催の「2017年度グッドデザイン・ベスト100」に選ばれ、さらにその中でも「グッドデザイン特別賞[未来づくり](経済産業省商務・サービス審議官賞)」を受賞しました。「グッドデザイン賞」は、日本唯一の総合的なデザイン評価・推奨の運動で、今日では国内外の多くの企業や団体などが参加する世界的なデザイン賞です。

当社が提唱してきた「トータルファッションシステム®」は、ホールガーメント®横編機と「SDS®-ONE APEX3」の組み合わせにより、企画からデザイン、生産、流通、マーケティング、販売までの繊維産業の流れを刷新するトータルのモノづくりを実現します。また、縫製では表現できない立体的な商品づくりや、消費地型生産へのシフト、さらには在庫リスクを抱えることなく環境に配慮することが求められる製造業の先進事例としての期待と評価が今回の受賞につながりました。



設備投資

フレキシブルな生産体制の構築を目指して新工場を建設



2017年10月、当社はホールガーメント®横編機などの需要増加に対応していくため、本社敷地内に新工場を建設しました。バングラデシュやASEAN諸国、中国などを中心にコンピュータ横編機の需要が拡大を続けていることに加え、ホールガーメント®横編機の需要が広がり、増産体制構築が喫緊の課題となっていたことから今回の新工場建設に至りました。同工場では、横編機の主要部品の機械加工や生産、さらに自動裁断機の部品加工などを行います。

今後も当社は、さらなる成長に向けて積極的に生産設備の自動化や新たな工作機械の導入、製品開発投資などを実施していきます。

イベント

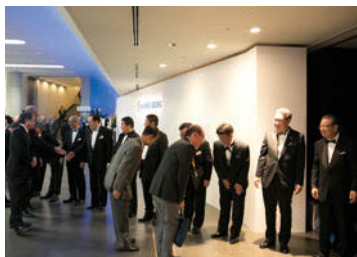
国内外から多くのユーザーをお招きし、「創立55周年記念イベント」を開催。シマセイキが見据える未来を提案しました。

2017年11月16～17日の2日間、和歌山ビッグホエールにて1,000名を超える国内外のユーザーを招いて盛大に開催された「創立55周年記念イベント」。

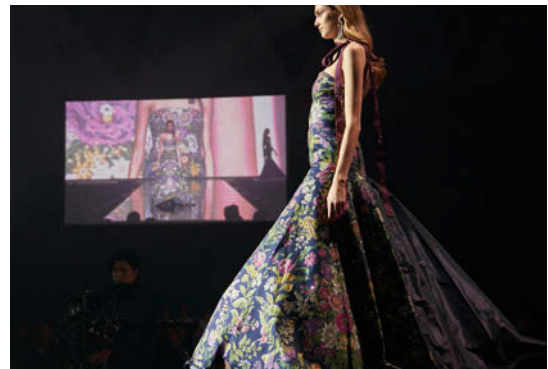
ホールガーメント®横編機をはじめとする最新鋭機器やニットサンプル約500点を紹介した展示スペースのほか、“リアル”と“バーチャル”のモデルが共演するファッションショーなど、多彩な企画を通して「シマセイキが見据える未来」をアピールしました。



多様なジャンルの
ニット製品を展示



2日間で1,000名以上のお客様が来場



最新コレクションによる華やかなファッションショー

表彰

多分野における貢献を表彰していただきました

当社の「全自動手袋編機(角型)」が日本機械学会の「機械遺産」に認定されました。

当社の「全自動手袋編機(角型)」が、一般社団法人日本機械学会より2017年度の「機械遺産」に認定されました。

当社の会長である島正博が1964年に開発した「全自動手袋編機」は、シマセイキ創業の“原点”となった機械。指先から各指のつなぎ、手のひら、手首まで一体化した編成を全自動で実現した画期的な製品で、手袋メーカーの生産効率を劇的に向上させました。



ホールガーメント®横編機「MACH2®XSシリーズ」が省エネルギー機器として表彰を受けました。

2018年2月、ホールガーメント®横編機「MACH2®XSシリーズ」が、第38回優秀省エネルギー機器表彰において「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。従来のニットウェア製造プロセスで必要だった裁断や縫製の工程を不要にできるため、原料やエネルギーなどの資源の節約とCO₂排出量の削減につながることで高く評価されました。



優秀省エネルギー機器
日本機械工業連合会会長賞
平成29年度 日本機械工業連合会

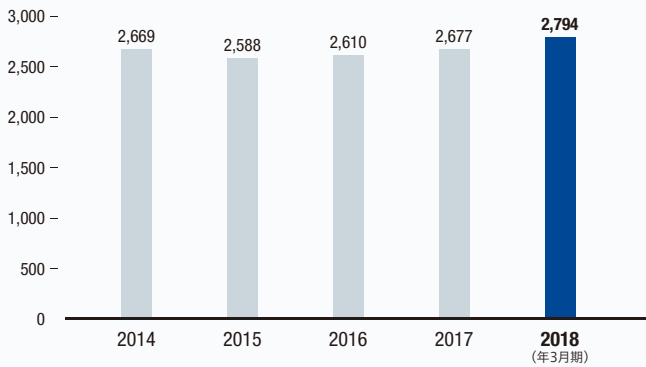


MACH2XS
可動シンカー付き無縫製立体横編機

成長を支える基盤

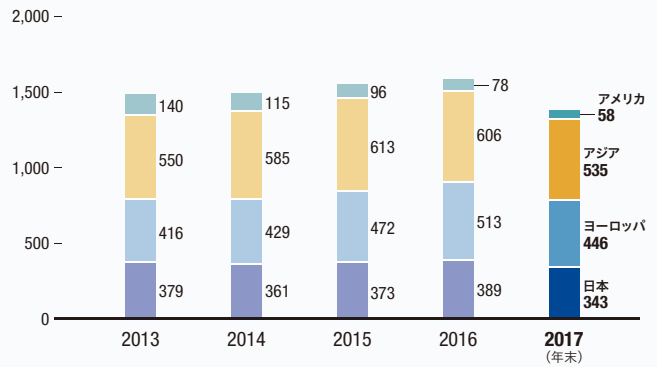
ESGハイライト

研究開発費 (百万円)



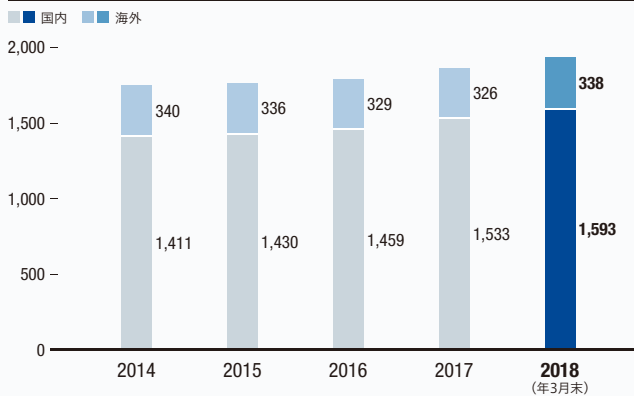
将来にわたり持続的な成長を続ける原資として、研究開発に注力しています。

特許件数 (件)



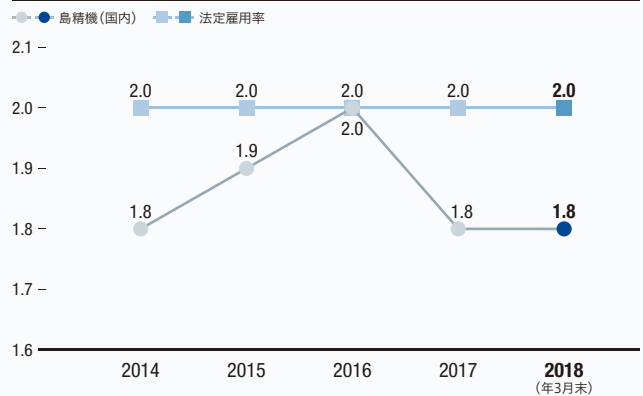
重要な経営戦略として、研究開発成果を知的財産権として保護しています。

連結従業員数 (人)



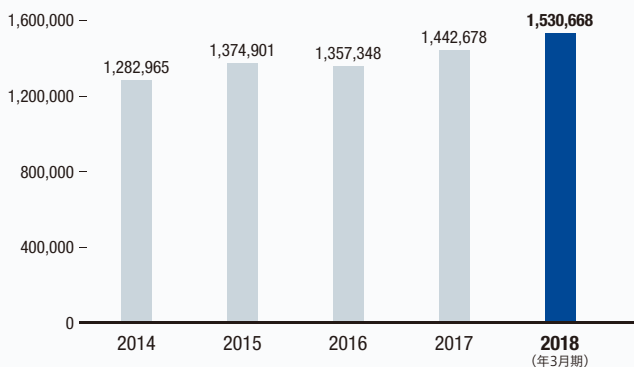
事業の拡大に対応するため、従業員数は増加しています。

障がい者雇用率(国内) (%)



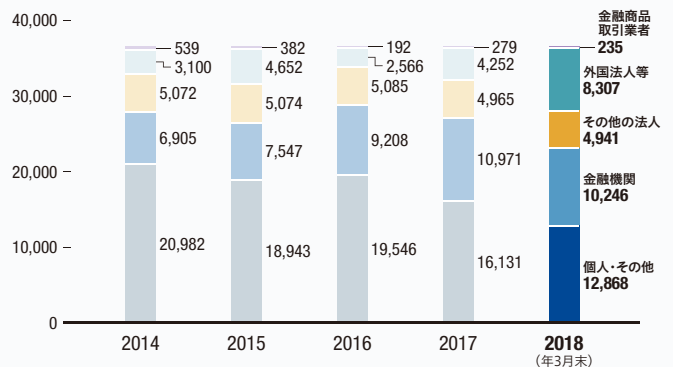
法定雇用率の達成が今後の経営課題です。

太陽光パネルの発電量 (kWh)



環境負荷低減のため、クリーンエネルギーで工場稼働エネルギーの一部を補っています(数値は当社社のみ)。

所有者別持株数 (千株)



個人投資家が減少した一方で、海外投資家比率が増加しました。

事業の発展と継続のために

研究開発活動

当社では、創業以来、「Ever Onward — 限りなき前進」の経営理念のもと、「創造性に基づく独自の技術開発」を基本に、ハードウェア、ソフトウェアを自社開発しています。

横編機分野におきまして、機種バリエーションの充実を進めていく一方で、部品の共通化を進める取り組みを行ってまいりました。ホールガーメント®横編機でも主力機種のバリエーションを拡充しており、「MACH2®XS」では、2015年に発表した「二枚編出し装置」をさらに進化させ、生産効率だけではなく原料消費を削減するモノづくりを追求しました。

デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」は、トータルソリューションシステムとしてソフトの充実を図り進化を続けております。また、自動裁断機の「P-CAM®」シリーズは、機種バリエーションの拡充とともに、「Total Cutting Solution」を確立させるため、裁断機の開発にとどまらず、延反からラベリング、ピックアップまで、裁断の前後工程において生産性向上や省人化につながる開発を強化しています。



自動裁断機と自動延反機を組み合わせた「Total Cutting Solution」

知的財産活動

当社の成長力の源泉である研究開発の成果を知的財産権として保護し、活用していくために、開発本部の中に知的財産部を設けています。

現在当社は、1,382件(2017年12月末現在)国内外特許を保有しています。当社の知的財産戦略の特徴は、「横編機の技術特許」をはじめ、「ニットの編成技術」、「デザイン技術」など幅広い技術の特許を取得していることです。当社製品やノウハウを利用するユーザーの製品を知的財産権で保護し、差別化することも重要な知的財産戦略と考えています。

また、最新の開発成果はもちろん、これまでに蓄積した技術やノウハウは全てデータベース化されており、社内でも共有でき

る体制を整えています。今後も知的財産活用をさらに強化し、周辺技術などについても特許出願していく方針です。

労働安全活動

当社では、月例の安全衛生委員会を開催し、従業員の安全遵守、健康増進、事故予防に取り組んでおり、今年度で47期目となります。その一環として、「無災害記録ボード」を掲示しています。

「従業員数(当社とグループ製造3社の直接雇用者数)×労災ゼロ(休業災害の発生ゼロ)日数」の数字を従業員食堂の壁面に掲示し、目標数値を15万日、30万日、45万日と達成するたびに更新し、その達成を目指して従業員の安全意識を高める活動を行っています。

また、委員会による定期的な社内巡視や、工場内の通行帯白線の随時見直しなど、安全で効率的に作業できる環境づくりを推進しています。



品質・環境活動

2002年にアパレルデザインシステムの設計及び製造に関するISO9001認証を取得、2015年にISO14001認証を本社で取得するなど、ISO規定や品質基準、環境基準に即した製造工程や品質管理を徹底しています。



事業継続計画(BCP)活動

当社では、大規模災害や事故等の発生時においても従業員やその家族および関係者の安全を確保しながら、事業活動の中断を最小化し、お客様への製品の供給責任を果たせる体制整備に取り組んでいます。

東南海・南海地震を想定した工場建屋の耐震対策や従業員の安否確認システムを整備するとともに、自らが被災した場合を想定して、事業を早期に復旧するための準備を平時から行い、災害が起きたときには、事業継続計画に基づき「危機管理本部」を立ち上げ、迅速に対応することとしています。

事業の発展と継続のために

従業員とともに

● 経営トップと従業員とのコミュニケーション

全体朝礼の中で月次の社長講話を実施し、社長自ら従業員に向けてメッセージを発信しています。

社長が月次の経営状況を説明するとともに、その月のトピックについて講話をし、従業員との考え方の共有を図っています。



● 研修制度

新入社員研修をはじめとする各種研修制度の充実に取り組んでいます。工場現場への配属となる新入社員は、最大で半年間、実技研修を受講し、配属後に即戦力となる技能を体得できるようにしています。

また、語学研修、新任役職者研修、次世代リーダー育成研修などを実施し、従業員のスキルアップをバックアップしています。

● 表彰制度

魅力あるモノづくりを目指し、社員一人ひとりが仕事として継続的に創意工夫しながら品質向上・コスト低減・労働災害防止・顧客満足度向上・スキルアップ・エコロジー等に取り組むことを奨励する制度として、改善提案表彰を実施。優秀な提案者は月例の全体朝礼の中で社長より表彰を行っています。

また、資格取得の表彰により業務のレベルアップを目的とした資格取得奨励制度や、ホールゲーム®1級技術者など、社内技能検定制度を2018年度より創設しています。

イノベーション創出企業として、技術発明を奨励する発明審査会も定期的に開催しており、毎年優秀な発明者をたたくて表彰式も行っています。

● 働き方改革

企業内保育園「しまキッズランド」を2017年4月に開設し、2018年3月末時点の定期保育利用率は最大収容人数の40%以上と着実に認知が進んでいます。出産後の職場復帰が容易

になる効果も出ています。

また、熟練スタッフの定年後の再雇用を進め、技術伝承の担い手として勤務していただいています。

● 従業員モチベーション向上策

当社敷地内にあるプール、テニスコートを休日に従業員家族にも解放しています。そのほか、昼休みの緑地利用や、グループ会社の運営するホテルを保養施設として割引価格で利用可能にするなど、従業員の健康増進やモチベーションアップに取り組んでいます。

取引先とともに

調達先については、適正な基準・生産背景による部材調達を徹底し、反社会的なルートによる調達、環境法令に適合しない原料・工程による調達を排除する取り組みを行っています。

また、販売代理店に対しては、機械操作の手順指導だけでなく、信頼できるパートナーとして人間関係構築につなげるよう、研修・サポートを充実させ、製品開発における課題抽出にも反映させるようにしています。

地域社会とともに

本社のある和歌山を中心に、地域への貢献にも取り組んでいます。

● 「ロボカップジュニア・ジャパンオープン2018和歌山」特別協賛
次世代を担う若い世代に科学技術への興味を深めてもらう狙いです。

● 「シマセイキカップ」の主催

和歌山発のマリンスポーツ発信のため、和歌浦湾でセーリング競技会を毎年、主催しています。

● クラシックスポーツカーの祭典「ラ・フェスタ・プリマヴェーラ」協賛
デザイン感性を追求する企業風土向上のため、東海・近畿をめぐるクラシックスポーツカーの祭典で和歌山市のチェックポイントとして当社が会場を提供しています。

● 美観的な街づくり、ボランティア活動支援

本社周辺道路の電柱地中化推進や、敷地の一部を歩道として提供するなど、本社周辺の環境整備に注力しています。また、和歌山城周辺の清掃活動などを通じて、地域への貢献に取り組んでいます。

株主・投資家との対話

株主総会

当社の最高意思決定機関として、重要事項を決定するとともに、年次の業績概況や連結計算書類の内容等を報告しています。議決権の行使は、パソコンやスマートフォン等を活用したインターネットでも可能です。

総会終了後に開催している工場見学会には、毎年多くの株主様に参加いただいております。当社の高い技術力を肌で感じていただく機会となっています。



株主総会後の本社工場見学会

決算説明会

証券アナリストや機関投資家向けの決算説明会を、年2回、決算発表に合わせて東京都内で開催しています。

決算説明会には代表取締役社長と経理財務担当役員が出席し、経営成績や将来の業績見通し、中期経営計画に基づく中長期的な経営ビジョンを説明するとともに、機関投資家との質疑応答を通して当社の経営方針に対するご意見やご提言をいただく機会としています。



決算説明会(東京)

国内外投資家との情報交換

当社グループは、国内外機関投資家との対話の機会を増やす取り組みを推進しています。特に、国内の機関投資家とは定期的に面談を行うほか、証券会社の主催するカンファレンスにも参加しています。海外投資家に対しても積極的な活動を行っており、2017年12月にはシンガポール・香港、2018年5～6月に欧州諸国の機関投資家を訪問しました。当社は、こうした海外IR活動を重要な取り組みのひとつとし、今後も感度の高い機関投資家の声を経営に反映させてまいります。



機関投資家に横編機で作ったサンプルを示しながら説明

IRツールの活用

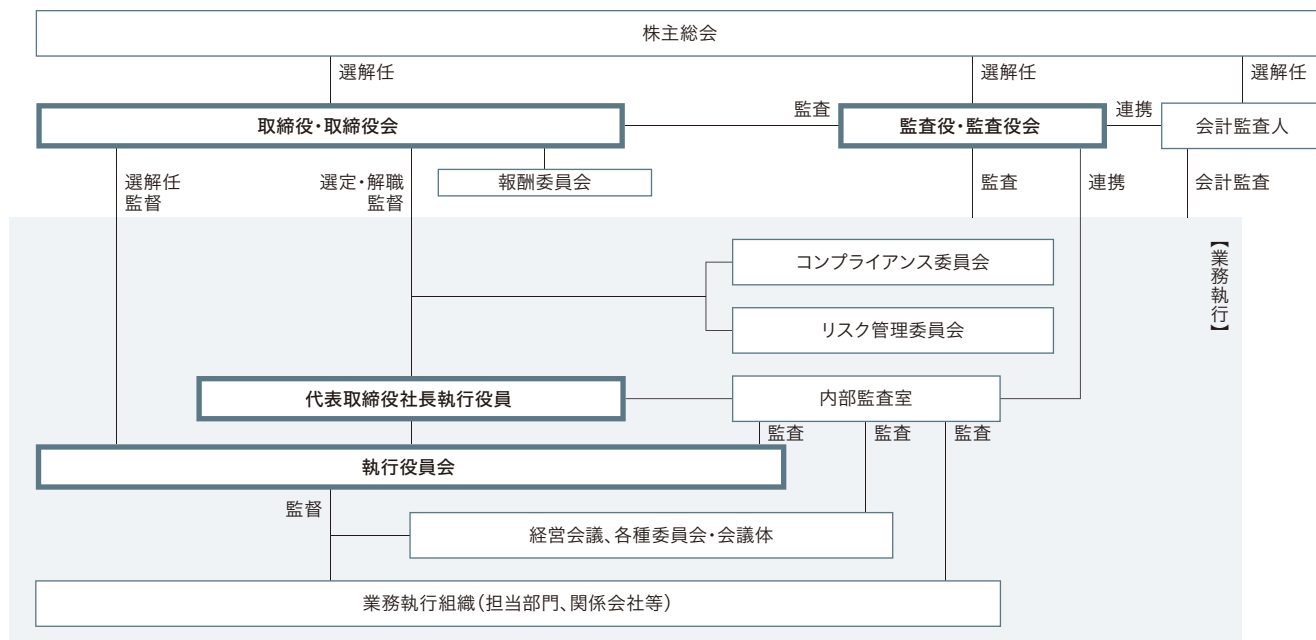
当社の事業内容や経営戦略、最近のトピックを株主や投資家の皆様により理解していただくためのツールとして、株主通信やアニュアルレポートを定期的に発行するとともに、ウェブサイトでのIR情報の掲載を充実させています。ぜひ、ご活用ください。



株主通信「株主のみなさまへ」

コーポレート・ガバナンス (2018年6月27日現在)

コーポレート・ガバナンス体制図



基本方針と体制

当社はコーポレート・ガバナンスの充実を、経営の効率化及び健全性、透明性を向上させ、同時に株主、顧客、取引先、従業員などのステークホルダーの利益を重視した経営を行うために重要な要件であると位置付け、取締役会制度及び監査役制度等の機能を十分に発揮させることにより、適正かつ効果的なコーポレート・ガバナンスが実施できる体制の構築を図ります。

ガバナンス体制

(取締役・取締役会)

取締役会は取締役9名(2017年度は12名)で構成され、月1回以上の開催により業務執行の監督にあたっています。

うち2名は社外取締役で、外部からの視点を通じて監督機能、経営体制の強化を図っています。2017年度は13回の取締役会を開催しました。

(監査役・監査役会)

監査役は、社外監査役2名を含む4名から構成され、取締役の職務執行と経営状況の監査を行っています。

社外監査役は弁護士、公認会計士・税理士としての専門的見地から取締役業務の監査を行っています。2017年度は12

回の監査役会を行いました。

(内部監査室)

内部監査室を設置し、業務全般の内部監査のほか、コンプライアンス状況やリスク管理状況、財務報告を含めた内部統制監査を年間監査計画に基づき実施しています。

(会計監査)

会計監査人として大手前監査法人を選任し、定期的に会計監査と内部統制監査を受けることで、監査の実効性を高めています。

内部統制システム

当社は内部統制システムの構築・運用を、企業理念・目標を実現させるための重要な要件であると考えており、「内部統制システムの整備に関する基本方針」を策定し、取り組んでいます。

また、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会、情報セキュリティ委員会を設けて内部統制の強化に努めています。

「財務報告に係る内部統制」についても、財務報告の信頼性を確保するため、公正かつ公平なディスクロージャーを推進する体制を整えています。

コンプライアンスへの取り組み

当社は「シマセイキグループ行動基準」の総則に「法令・企業倫理の遵守」を掲げて関係法令の遵守や社会規範の尊重に努めています。その実現のため、コンプライアンス委員会を設置し、定期的にコンプライアンスの状況をチェックするとともに、研修などを通じて計画的にコンプライアンスの定着を図っています。

また、法令違反や人権侵害などの報告・通報窓口として、社内外に「企業倫理ヘルプライン」を設けて運用を行っています。

株主との建設的な対話に関する方針

当社では、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主・投資家等との建設的な対話を促進いたします。

- (1) ディスクロージャー・ポリシーに基づき、当社のIRに関するスポークスパーソンは、社長、経理担当取締役、情報開示責任者（総務人事担当取締役）、IR担当者としています。
- (2) IR担当部署である総務人事部は、経理財務部と適切に協働し、また関連部署と連携のうえIR活動を推進し、経営陣による株主・投資家等との対話をサポートします。
- (3) IR活動として、沈黙期間を除く株主・投資家との個別面談や電話会議、アナリスト・投資家向け決算説明会（期末・第2四半期の決算発表後）、個人投資家向け会社説明会等を行うほか、ホームページ、ディスクロージャー資料等さまざまな形で、より分かりやすい情報発信を行い、株主・投資家等との対話の促進を図ります。
- (4) 対話を通じて把握した意見・要望等については、必要に応じて経営陣および関連部門へフィードバックし、情報の共有を図ります。

- (5) インサイダー情報については、インサイダー取引防止規程に基づき適切に管理します。

会社の目指すところ（経営理念等）や経営戦略、経営計画

当社では、中期経営計画「Ever Onward 2020」を策定し、その中で経営理念、経営計画等を開示しています。詳細は当社ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。
<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/plan/pdf/plan2018.pdf>

政策保有株式

当社は、事業上の重要性や取引関係の維持、強化、連携等を通じ当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると判断する場合に、政策的に株式を保有いたします。また、主要な政策保有株式については、取締役会で保有の必要性を検証します。

政策保有株式に係る議決権の行使については、その議案の内容を精査し、株主価値の向上に資するものか否かを判断した上で適切に行使します。

取締役会・監査役会の実効性確保

当社では、取締役会の機能が効果的・効率的に発揮できるよう、取締役は15名以内の適切な人数で構成し、取締役会全体としての知識、経験、能力、専門性等のバランス、多様性が確保されるように配慮するものとしています。

また社外取締役には、独立性に関し当社の定める基準を満たすとともに、多様な視点を取り入れる観点から、広範な知識と豊富な経験および企業経営、法務、財務・会計等の出身分野における実績を有する者から選任することとしています。

執行役員制度の導入について

当社は、2018年6月27日付で執行役員制度を導入いたしました。

経営の意思決定および監督機能と業務執行機能を分離することにより、業務執行の責任の明確化を図るとともに、取締役会の監督機能の強化ならびに意思決定の迅速化による経営の効率化を目的としています。

執行役員の選任、解任ならびに職務および担当業務は取締役会において決定することとしております。執行役員の任期は2年とし、再任を妨げるものではありません。

執行役員制度の導入の利点として、上記の目的に加えて、経営陣と一般従業員とのコミュニケーションが高まり経営方針を共有しやすくなり、現場の声が企業経営に反映されやすくなることが挙げられます。さらに、現場に近い執行役員が従業員の能力や適性を判断しやすくなることから、将来の幹部人材の発掘にもつながると期待されています。

コーポレート・ガバナンス

(1) 評価の方法

取締役および監査役に対して、取締役会の実効性に関して段階評価およびコメントを記載する方式の質問票を配布し、その結果をもとに、取締役会において分析・評価を実施しました。

(2) 評価結果の概要

当社の取締役会は、全般的に概ね適正に機能しており、審議、議論を通じた適切な監督が行われていることから、全体として取締役会の実効性は確保されていると評価しました。

一方、取締役会の実効性を更に高めるための取り組みとして、以下の点について課題として認識しています。

- ・取締役会の構成(人数、多様性)
- ・中長期的な経営戦略における議論の充実
- ・取締役の報酬制度のあり方
- ・リスク管理の議論の充実

(3) 今後の対応

当社の取締役会は、上記評価結果を踏まえ、取締役会での議論の活性化、充実に向けて、引き続き検討を続け、更なる取締役会の実効性の確保に努めてまいります。なお上記課題に対しては、執行役員制度の導入による取締役の減員や報酬委員会の設置などの対応を進めています。

取締役・監査役のトレーニング

取締役会は、取締役・監査役が期待される役割・責務を適切に果たすため、必要な知識の習得や適切な更新等の研鑽に努めることを奨励し、このためのトレーニング機会の提供や斡旋、必要な費用の支援を行います。また、社外取締役

および社外監査役については、当社事業をより深く理解するための事業内容の説明等の機会を設けることとしています。

取締役報酬決定の方針・手続き

取締役の報酬は、固定報酬と当該事業年度の業績に連動した役員賞与によって構成し、またインセンティブ報酬として機能するようストックオプションによる報酬も組み入れています。なお、社外取締役の報酬は、その役割と独立性の観点から、固定報酬のみとしています。

取締役の報酬は、株主総会で承認された範囲内で、取締役会の決議により決定いたします。取締役会で報酬等を決議するにあたっては、その客観性を高めるため、社外取締役を委員長とする報酬委員会を設け、委員会での審議を経る手続きを行うものとしています。

関連当事者間の取引

当社が、当社役員や当社役員が実質的に支配する法人、または主要株主等と取引を行う場合には、あらかじめ取締役会に付議し、その承認を得るものとします。

社外取締役・社外監査役の主な活動と選任理由

区分 氏名	取締役会 (13回開催)	監査役会 (12回開催)	選任理由
社外取締役 一柳 良雄 氏	13回出席	—	経済・産業政策等の分野における豊富な経験とともに企業経営者としての経営全般にわたる幅広い見識、経験を有していることから、社外取締役として選任しています。
社外取締役 残間 里江子 氏	13回出席	—	プロデューサーとしてイベントの企画やPR・広報戦略における豊富な経験とともに企業経営者として経営全般にわたる幅広い見識、経験を有していることから、社外取締役として選任しています。
社外監査役 新川 大祐 氏	11回出席	11回出席	公認会計士・税理士としての豊富な経験を有しており、主に経理・税務的な観点から監査を通じ当社経営の健全性の確保に貢献いただけるものと判断し、社外監査役として選任しています。
社外監査役 野村 祥子 氏	13回出席	12回出席	弁護士としての豊富な経験を有しており、主に法務的な観点から監査を通じ当社経営の健全性の確保に貢献いただけるものと判断し、社外監査役として選任しています。

取締役・監査役・執行役員 (2018年6月27日現在)

取締役

代表取締役会長
島 正博



代表取締役社長
島 三博



経営企画部担当

専務取締役
梅田 郁人



営業本部長兼
トータルデザインセンター担当

常務取締役
有北 礼治



資材部長兼生産本部担当

取締役
南木 隆



経理財務部長兼総務人事部、
管理部、物流部担当

取締役
西谷 泰和



開発本部長

取締役
西川 清方



営業統括部長

社外取締役
一柳 良雄



株式会社一柳アソシエイツ
代表取締役&CEO

社外取締役
残間 里江子



株式会社キャンディッドプロデュース
代表取締役社長

監査役

常勤監査役
植田 光紀



常勤監査役
戸津井 久仁



社外監査役
新川 大祐



北斗税理士法人 代表社員

社外監査役
野村 祥子



堂島法律事務所 パートナー弁護士

新任監査役 戸津井久仁氏 ご紹介

戸津井久仁氏は、長年にわたり経理財務部門に在籍し、その分野における豊富な経験と知見を有しております。また、経理財務部門で積んだ経験、実績を活かし、直近は内部監査室の責任者として当社事業全般に精通しております。

これらのことから、監査を通じ、当社経営の健全性および透明性の確保に貢献できるものと判断しました。

執行役員

氏名	役職名
島 三博	代表取締役社長執行役員 兼経営企画部担当
梅田 郁人	専務取締役執行役員 営業本部長兼トータルデザインセンター担当
有北 礼治	常務取締役執行役員 資材部長兼生産本部担当
南木 隆	取締役執行役員 経理財務部長兼総務人事部、管理部、物流部担当
西谷 泰和	取締役執行役員 開発本部長
西川 清方	取締役執行役員 営業統括部長
今井 博文	執行役員 総務人事部長
大谷 明広	執行役員 生産部長
北川 尚作	執行役員 経営企画部長



財務情報について

財務に関する次の情報は、有価証券報告書をご覧ください。

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書
- 連結包括利益計算書
- 連結株主資本等変動計算書
- 連結キャッシュ・フロー計算書
- 連結財務諸表注記

第57期 有価証券報告書

<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/library/list.php?cate=2>

<財務数値について>

この日本語版アニュアルレポートは、海外の読者向けに作成された英語版アニュアルレポートを翻訳したものです。そのため、有価証券報告書の財務数値と異なる箇所があります。

企業情報 (2018年3月31日現在)

会社概要

商号 株式会社島精機製作所
本社 〒641-8511 和歌山市坂田85番地
 Tel: (073)471-0511(代) Fax: (073)474-8267
創立 1962年2月4日
資本金 148億5,980万円
従業員数 1,324名(連結1,931名)
URL 企業トップページ <http://www.shimaseiki.co.jp/>
 IR・投資家情報 <http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>



連結子会社 株式会社シマファインプレス SHIMA SEIKI EUROPE LTD.
 ティーエスエム工業株式会社 SHIMA SEIKI U.S.A. INC.
 株式会社海南精密 島精機(香港)有限公司(SHIMA SEIKI (HONG KONG) LTD.)
 東洋紡糸工業株式会社 SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.
 株式会社SHIMA 島精榮榮(上海)貿易有限公司(SHIMA SEIKI WIN WIN SHANGHAI LTD.)
 SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.
 東莞島榮貿易有限公司(SHIMA SEIKI WIN WIN DONGGUAN LTD.)
 SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD.
 SHIMA SEIKI KOREA INC.

投資家情報

決算期 3月31日
定時株主総会 6月
発行可能株式総数 142,000,000株
発行済株式総数 36,600,000株
株主数 11,396名
上場取引所 東京証券取引所市場第一部
監査法人 大手前監査法人

主要大株主

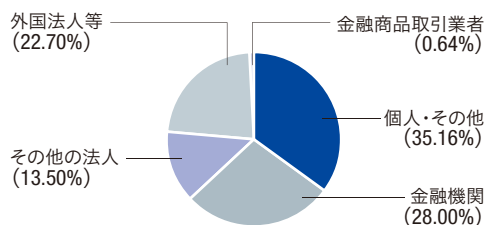
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
和島興産株式会社	4,020	11.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,241	6.14
株式会社紀陽銀行	1,472	4.03
MSCO CUSTOMER SECURITIES	1,449	3.97
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,432	3.92
島 正博	1,070	2.93
島 三博	1,061	2.91
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.41
合同会社和光	780	2.14
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C NON TREATY	715	1.96

(注)1. 持株比率は、自己株式(87千株)を控除して計算しております。

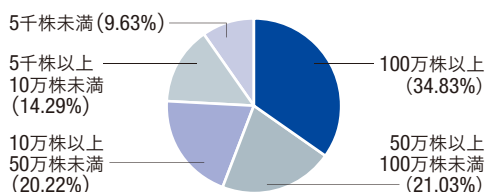
2. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日付で商号変更して、株式会社三菱UFJ銀行となっております。

株式分布

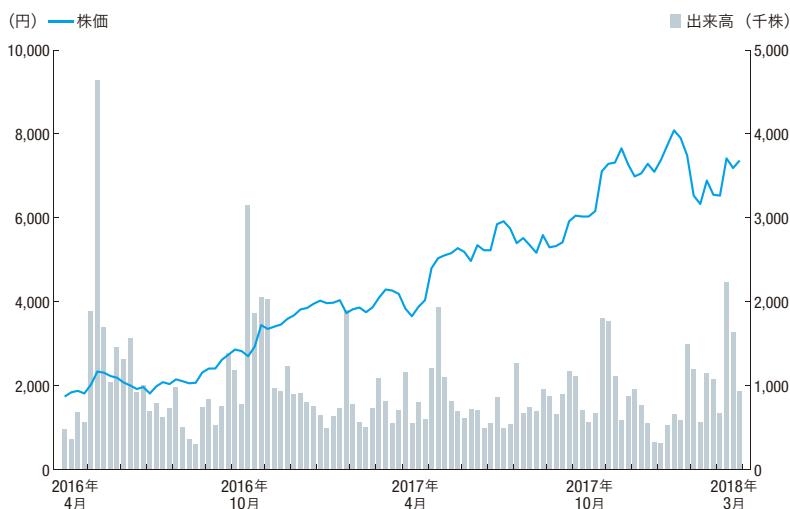
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移



IRサイトのご紹介

当社のIR情報をホームページに掲載しています。業績などの最新情報はもちろん、用語集やよくある質問、IRカレンダーなど役立つコンテンツをご用意しています。ぜひ一度、ご覧ください。



<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>

スマートフォンからもIR情報へアクセス

QRコード(二次元コード)の読み取りに対応したスマートフォンをお持ちの方は、右の画像を読み込むと簡単にアクセスできます。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

Tel: (073) 471-0511(代) Fax: (073) 474-8267

<http://www.shimaseiki.co.jp>

SHIMA SEIKI、シマセイキ、WHOLEGARMENT、ホールガーメント、MACH2、SWG、SES、SIR、SSG、SSR、SVR、SRY、SDS、SDS-ONE、SDS-ONE APEX、SIP、P-CAM、Shima KnitPLM、シマトロニック、TOTAL FASHION SYSTEM、トータルファッションシステムは株式会社島精機製作所の日本及びその他の国における登録商標または商標です。

この冊子に記載されている各種名称、会社名、商品名などは、各社の登録商標または商標です。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。